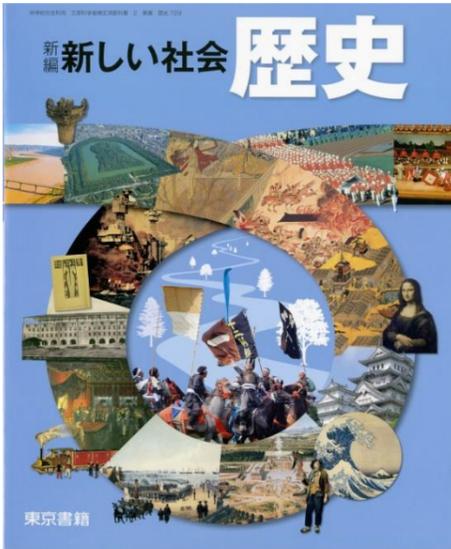


文書館で、調べ学習



『新しい社会 歴史』（東京書籍）。中学校用の歴史教科書の一つです。その2016年度版に福井県文書館が登場します。

同書では、時代ごとに「歴史探検隊」による調べ学習の実践例が紹介されています。中世の「探検隊」でとり上げられているのは、ここ福井県の「一乗谷」です。

まず、身近な手がかりをもとにして、調べるテーマを決めていきます。テーマが決まれば、次は調査です。その調査先として

登場するのが、一乗谷朝倉氏遺跡資料館、福井県立図書館、そして福井県文書館です。

資料館で展示を見れば、一乗谷の当時の生活のようすが、図書館で郷土資料コーナーの本を読めば、一乗谷の歴史が、文書館で資料を見れば、一乗谷に生きた当時の人々の考えがわかってきます。

文書館の資料が本やテレビでとり上げられることはあっても、文書館そのものがとり上げられることはあまりありませんでした。



今から数年前、2009年のセンター試験「日本史A」の第一問で、高校生が体験学習で訪れたある文書館でのやりとりを元にした問題が出題されました。センター試験という大舞台で文書館がとり上げられたことは、文書館が身近になってきた証といえるでしょう。それでも、博物館などに比べるとまだまだ敷居が高く、設置数が増えてきたとはいえ、知名度はそれほど高くありません。

一文書館として、今回の教科書への登場で文書館がもっと身近になることを願っています。